

研究・調査報告書

報告書番号	担当
289	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
The effect of early cognitions on cigarette and alcohol use during adolescence. 思春期の喫煙・飲酒に対する早期の認識修正の効果	
執筆者	
Andrews JA, Hampson SE, Barckley M, Gerrard M, Gibbons FX.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Psychol Addict Behav. 2008 Mar;22(1):96-106.	
キーワード	
学童期・思春期・認知発達・社会的規範	
要 旨	
<p>目的および方法： 思春期の喫煙および飲酒を小学生期の認知発達から予測した。潜在性成長モデルを用いて、児童の認知発達度を調べた。対象はオレゴン州ユージン在住の 712 名のオレゴン青少年薬物使用プロジェクトの対象者であり、第 1 回調査を 2 年生および 5 年生に行い、その後、7 年間に渡って、半年から 1 年おきに認知発達度を計 6 回調べた。</p> <p>結果： 小学生児童の認知発達と主観的規範（第 1～4 回調査時）は思春期（第 5 回調査時）の喫煙・飲酒念慮および第 6 回調査時の喫煙・飲酒と関連があった。第 1 回調査時の認知発達は、全調査期間のある時点の喫煙・飲酒のいずれについても、第 5 回調査時の喫煙・飲酒念慮を通じて間接的に関連していた。第 1 回調査時の主観的規範は、喫煙・飲酒念慮・および強い喫煙・飲酒意図を通じて間接的に実際の喫煙・飲酒と関連したばかりではなく、主観的規範と喫煙行動には直接的な関連も見られた。</p> <p>考察： 小学生児童の認知発達測定により思春期の飲酒・喫煙を予測することが可能であった。この結果より、飲酒者・喫煙者に対する社会的イメージを学童期に変えるような予防的プログラムの必要性および、同年代の飲酒・喫煙に対するより正しい感覚を身につけさせることの必要性が強調されるものである。</p>	